

## 静脈血栓症の再発予防のための少量アスピリン療法の検討

静脈血栓症を初めて発症した人は、抗凝固療法を中止すると再発の危険が高い。本研究では、初めて静脈血栓症を発症した 822 人をアスピリン 100 mg 服用群とプラセボ（偽薬）群に割り付け 4 年間観察した。

静脈血栓症は、対照群で 411 人中 73 人（1 年あたり 6.5%）で再発し、アスピリン群では 411 人中 57 人（1 年あたり 4.8%）で再発し、リスクの低下は 26% であったが統計学的に意味のある差ではなかった。二次複合転帰の静脈血栓症、心筋梗塞、脳卒中、心臓血管病死はアスピリン群で 34% の減少と統計学的に意味のある差で減少した（8% 対 5.2%）。また、静脈血栓症、心筋梗塞、脳卒中、大出血、全死亡は 33% 減少した。出血や重い副作用に差はなかった。

本研究では、アスピリンは静脈血栓症の再発は減らさなかったが、主要な血管病の発症を減少し、臨床的に有益であることが明かとなった。

（出典：New England Journal of Medicine 2012;367:1979-1987）